慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	川崎市史通史編(川崎市役所編纂・發行)
Sub Title	
Author	武田, 勝藏(Takeda, Katsuzo)
Publisher	三田史学会
Publication year	1939
Jtitle	史学 Vol.17, No.4 (1939. 7) ,p.161(689)- 162(690)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	書評
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19390700-0162

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

天皇の時より御靈會始まり、後三條天皇以後、行幸等のこと相踵ぎ、疫病流行に際しては必ず奉幣の儀ありて明治維新に至る由緒嚴然たる大社である。

終に本書は神德の發揚に資するのみならず、學界に貢獻する處極めて多きを紹介し、方今の時局に際會し赫々たる神威を景仰し益〻出征皇軍の武運長久を祈願して擱筆する。（昭和十四、四、十八、武田勝藏）

歴代詔勅集

辻善之助監修
目黒書店發行

本書は皇祖の神勅より今上陛下の軍人援護の勅語に至るまで、古來の詔勅宣命等にして、御聖德を拜仰し得るものを中心として、國史上重要なるものを、信憑すべき史料に據りて蒐集し、便宜上、三十を神代より現代に至る各時代に分類し、御歴代中に於ては各年代順に排列せしもので、更に鎌倉時代以降は宸翰・御願文・御訓誡書・御消息・御奥書等をも滿載してゐる。又其の樣式は各詔勅毎に先づ標題を掲げ、其の原文の漢文にして一般に難解のものは、其の謹譯を載せ、次に原文を擧げ、難讀の語句には振假名を付してゐる。

本書は東都出版界の重鎭たる目黒書店の開業以來、明治文運隆昌の庇蔭に因り、更に昭代の恩澤に浴し、五十年の星霜を閲した る報恩記念として、之が編纂を森末義彰岡山泰圓兩氏に委囑して刊行し、弘く諸學校等に頒ち、以て國體の淵源の深遠なるを知得せしめむとしたものである。

猶ほ所藏原文の讀方等に付きては、或は一二の異論あらむも、本書の教學の上、はた學徒の史學研究の上に多大の貢獻あるは疑はざると共に、編纂者並に書店の勞に敬意を表す。（昭和十四年四月十九日・武田勝藏）

川崎市史通史編

（川崎市役所編纂・發行）

我が國港灣工業都市たる川崎市は、汪洋たる多摩の川口近くの部落たりし古より凡そ千數百年の歴史を有し、其の間、變遷消長ありて、今日の盛大と殷賑とを見るに至りしものである。本書は先づ總論に起筆し、史前時代より現代までを六章に分ち、綱を提げ要を摘んで記述され、實に川崎市の發達史である。

川崎の繁榮の端は、家康の江戸經營であり、又五街道設置である。川崎の街道驛としての出現は、驛次創制より稍〻遲れ、川崎が新設加入せられ、始めて東海道は五十三次と稱呼せられ、其の置驛の年代には從來異說があり、本書は元和九年と證を擧げてゐる。爾來、問屋場・本陣等は完備し就中、寳永五年六鄕川の渡船權を附與せられし以來は、次第に殷賑を極め、幕末に至る迄には幾多の起伏があつた。

明治元年明治天皇の御東行の節、六鄕川には船橋を用意せしも、押し來る文明開化の波は、今更の如く架橋の必要を迫り、明治十六年六鄕橋が竣工し、橋行く人々は昭代の恩澤を謳歌した。其の後、兩度程、流失の禍に遭ひ、大正十四年八月現在の一大新式鐵橋の出現を見た。又其の間五年五月東京横濱間の鐵道の開通に依

りて、六月川崎停車場の開場となり、如上、當市は交通都市としての功績を永く史上に留めた。然るに四十年工場招致の氣運となり、其の黎明期には、明治製糖の前身なる横濱製糖工場の新設となり、四十五年川崎は工場招致を以て町是と定め、爾後、急速に煙突は林立し、黑煙は天に上り、本邦屈指の工業都市と變り、各種工場は其の庇を接し、我が工業史上に燦然たる光彩を放つに至つた。この間、當初に於て地主の時勢を達觀し、商賈とよく協力して、産業の開發に盡瘁せし功績は寔に賞揚すべきである。

現在の都市は大正十三年七日附近町村の合併に依りて建設せられ、爾後、數度に亙りて合併あつて、實に人口二十有餘萬に達し、國内産業の中樞となり、今後の進展は期して俟つべきである。

要するに、本書は市民をして川崎の過去を追憶せしめ、現在の狀態を觀取し、更に將來に向つて意圖を抱懷せしむる好資料である。最後に編纂者中道等氏の勞に對して敬意を表し本書の紹介を終る。（昭和十四、五、十九、武田勝藏）

寄贈交換圖書雜誌目錄

臺北帝大史學科研究年報　第五輯　臺北帝大文政學部
宮城縣利府村大澤瓦窯址研究　内藤政恒著　東北帝大
歷史と生活　二ノ二　慶應經濟史學會
國民精神文化　五ノ三、四、五、六　國民精神文化研究所
商業と經濟　一九ノ二　長崎高商研究會
學叢　七　木曜會
文科　四ノ四、五　文化學會
基督教研究　三、四　基督教史研究會
埼玉史談　一〇ノ四　埼玉鄉土會
史學會誌　一四　京城帝大史學會
駒澤地歷學會誌　二　駒澤大學地歷學會
龍谷史壇　二三　龍谷大學史學會
古學叢刊　一　北京古學院
法經會論叢　七　北大法經會
蒙古　一、二　善隣協會
北京近代科學圖書叢刊　一九、二〇、二二、二五　北京圖書館
尾談舊說　一　名古屋溫故會
愛知縣史蹟名勝天然紀念物調査報告　一七　名古屋溫故會
昭和十三年の國史學界　筑波研究部
Harvard Journal of Asiatic Studies　Vol. III, Nnm. 3,4　東北帝大圖書館
文化　六ノ三、四、五　燕京學報　二四、圖報一二四、五、六、七、八、九、一三〇　燕京大學圖書館
風俗研究　二二三、二二四　風俗研究所
畫說　一四ノ三、四、五、六　東京美術研究所
人類學雜誌　五四ノ二、三、四、五　東京人類學會
北方文化研究報告　一　北方文化研究室
上毛及上毛人　二六三、四、五、六　上毛鄉土史研究會
經濟史研究　二一ノ三、四、五、六　日本經濟史研究會
考古學論叢　一一　考古學研究會